

# 事業名: 里山再生事業 ~ 里山資源を活用したひとづくり ~



自治体の紹介

## 〇市の概要

岐阜県の中南部に位置し、名古屋から鉄道で最速約40分で到着します。市の北部は森林が広がり、南部には一級河川である「木曾川」が流れており、山と川に囲まれた自然豊かなまちです。

〇人口: **57,448人** (R5.10 時点)

〇面積: **7,481ha** (総面積の39.6%に当たる2,965haが森林。うち人工林が770ha、天然林が2,100ha)

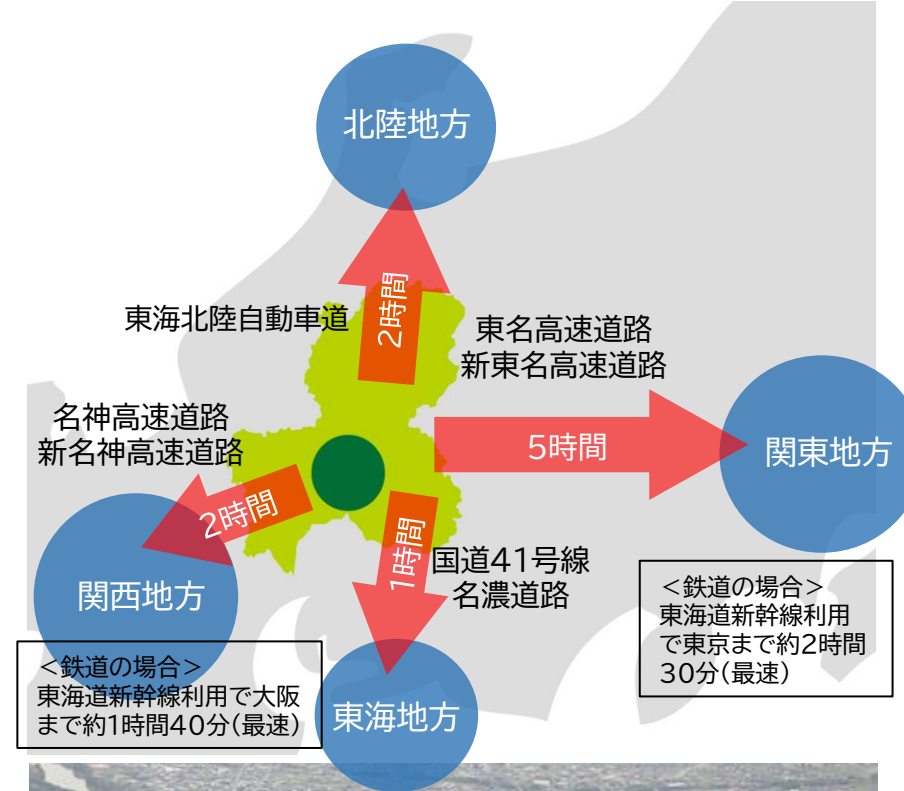
生活様式の変化等で里山林は放置され、里山林を覆う広葉樹は「林齢のピークの60年生」に近づいている。さらに近年、マツ枯れ、ナラ枯れで高齢大径木が被害を受け母樹としての機能が低下したり、広葉樹の伐採放置林に竹が繁茂し生態系がくずれなど、里山林の荒廃が年々拡大し、森林の公益的機能が発揮できなくなっている。

現状の課題



- ・里山林の荒廃
- ・森林整備の担い手不足
- ・有害鳥獣による農被害

…など





## ～里山千年構想～

事業の目的

### ☆孫子の代へ残したい里山

- ・計画的に整備を行うことで持続可能な美しい里山をめざす

### ☆荒廃した里山の計画的な整備

- ・住民の安全を守るための里山整備
- ・鳥獣被害防止のための里山整備
- ・環境を守るための里山整備
- ・愛着を持たれる空間創出のための里山整備

### ☆維持管理体制の確立、人材育成

- ・持続可能な里山のための人材育成と仕組みづくり
- ・山林所有者の意識改革
- ・地域で維持管理し守る里山

～千年経っても変わらない風景を残す！～

### 「里山千年構想」

昔からの山の姿を取り戻し本当の里山の魅力を再生！

里山整備  
孫子の代へ  
残したい里山

里山千年  
構想

資源活用  
里山の樹木  
を価値ある  
ものへ

里山活用  
里山を人が  
集う場所へ

### ☆毎日のように通える里山へ

- ・森のさんぽ道の整備から「みのかも自然歩道」へ
- ・ウォーキングマップの作成
- ・みのかも健康の森を里山活動拠点とし、都市圏住民の「里山体験の場」にする。  
(薪ストーブ設置、薪割り体験、原木の置うち体験等)

### ☆里山を学びの場へ

- ・森のようちえん
- ・保育園、小中学校等の自然学習の場
- ・自然ワークショップ  
(自然観察会、樹木伐採、植林体験 等)



### ☆里山資源の発掘・有効活用

- ・里山を里山資源研究の場として提供  
(近隣の学校との連携)
- ・里山資源研究成果の活用
- ・循環できる仕組みづくりの推進
- ・里山資源ビジネス研究会

### ☆「美濃加茂市産材」

- ・広葉樹の利用方法発掘
- ・「アベマキ」の活用方法の検討  
(薪、炭、しいたけ原木、製材等)
- ・伐採後の竹の利用方法の確立



里山資源を活かした  
ひとづくりの実践

里山千年構想  
—せとやま せんねん こうそう—





## □森のようちえん

参加者を募ったイベント型として実施し、遊具など作られたものがない里山内で、子ども達が里山を自由に使い自由な発想で遊ぶことで、新たな気付きを感じることができる。

## □里山保育

市立保育園・こども園における、日常保育として実施し、自然にふれて遊ぶことを繰り返すことで、子どもの好奇心を沸き立て想像する力を育みながら、人の基礎を築くことができる保育を推進する。

## □アバマキを活用した学校机プロジェクト

小学校の環境教育と連携し、市内森林に自生するアバマキを小学校の学習机の天板に活用。

(ウッドデザイン賞2015 林野庁長官賞受賞)

(キッズデザイン賞2018 審査委員長特別賞受賞)

(ウッドデザイン賞2022 ソーシャルデザイン賞入賞)

3 すべての人に  
健康と福祉を



4 質の高い教育を  
みんなに



15 陸の豊かさも  
守ろう



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



# 事業名:里山再生事業～里山資源を活用したひとづくり～



得られる成果等

企業側のメリット

## □森のようちえん

物事を考える発想力・創造力の向上。また、参加同士で遊び方を決めることで、コミュニケーション能力や協調性の獲得に寄与する。

## □里山保育

子どもたちの五感を刺激する体験が、環境への感謝や尊重の感性を育み、自己肯定感を高めることで、人とのつながりや主体性を備えた人財の基礎をつくる。

子どもたちが持っている「生きる力」を最大限応援できる保育体制を整えることができる。→保育士の育成

## □アベマキを活用した学校机プロジェクト

資源活用の過程を学び、里山やその生産物を大切にすることを育む。



### ①企業活動の最前線 フィールドとして連携



- ・里山資源を活用した商品(体験)開発
- ・企業協働の森に関する協定など…研修や社会実験の場として活用

### ②企業の新たな付加価値を創出



- ・SDGsからESGにつなげ、ブランド力や信頼性の向上により、人財確保、コミュニティ創造、イノベーション創出のきっかけとなる

### ③寄付額が税額控除の対象になる(企業の実質負担:約1割)

□問い合わせ先

経営企画部 企画課 企画政策係 担当:野村

TEL:0574-25-2111(内線336) FAX:0574-25-3917

E-mail:kikaku2@city.minokamo.lg.jp

市役所HP

